

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901852		
法人名	株式会社 ケアジャパン		
事業所名	グループホーム 永山亭 ユニット1		
所在地	旭川市永山4条22丁目4-12		
自己評価作成日	令和3年2月15日	評価結果市町村受理日	令和3年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0172901852-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0172901852-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は、食材配達や配食を使用せずに、近所のスーパーに食材を買いに行き、施設内にて調理することで、家庭的な雰囲気や味の創出を行っている。また、配食を使用しないことで、一人一人の好き嫌いに対して細やかに対応できている。  
 入浴は、機械浴(リフト浴)を完備し、たとえ歩行が困難になり、車いすでの生活を余技なくされたとしても、浴層に安心して浸かって頂ける様になっている。  
 外出レクはなかなかできない状況にあるため、室内にてなるべく楽しんで頂ける様に、毎月の行事の他、1ヶ月に1度生菓子の日を作り、ケーキや和菓子などを召し上がっていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭川市永山地区の住宅地にあり、旭川大学や付属幼稚園の近くに建つ2階建て2ユニットの事業所である。昨年までは町内行事に積極的に参加してこの地域で生活をする住民として暮らしていたが、感染症予防対策として外出の自粛などを強いられており、外部との交流を持つことが困難な状況にある。その状況の中でも孤立したり、寂しい思いをしないよう事業所として出来ることを模索し、感染予防に留意して個別の外出やドライブ、事業所周辺の散歩に出かけ季節を感じている。家族に会えないことで不穏にならないよう家族に電話をかけて話をしたり、手紙を代筆するなどの交流支援を行っている。面会は利用者の感染症予防に配慮して玄関の自動ドア越しの面会支援も行っている。浴室は全体で3か所あり、そのうち1か所はリフト浴で車イスの利用者でも安心して湯船に浸かることが可能である。職員研修では実際に身体拘束を体験し、不快な思いを実感することで身体拘束ゼロの考えを深めている。職員は利用者が笑顔で元気に暮らせることを第一に考えながら毎日の業務にあたっており、気になる話しかけがあれば職員同士がその場で注意し合い、言葉による不適切ケアを事前に回避している。事業所の理念を共有し利用者を支えつつ寄り添いながら、快適で安全に暮らすことができる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を全職員で作ることで共有しやすい環境の整備を図っている。また、実践しやすい内容とすることで、日常に活かせるようになっている。	理念はパンフレットに地域を中心としたケア理念が書かれており、事業所内の事務室や壁に掲示してある。全員で作上げた理念を意識しながら、日常的に笑顔で生活を共にすることで共有ができています。職員は日々の業務を通して確認をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加することや認知症の普及啓発の為にサポーター養成講座を地域包括と開催する等行っていたが、今年度は、除雪時に向かいの方と交流する程度となっている。	町内会館で老人クラブやサークルに参加したり町内の花見や夏まつりに出かけている。地域包括支援センターと共同しサポーター養成講座も開催していた。看護学生や医大生の研修も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の普及啓発の為に、地域包括と認知症サポーター養成講座の出前講座などを開催していたが、今年度は、特に働きかけられていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までの運営推進会議構成員に加えて、他のグループホームにも加わってもらうことで、他のグループホームの話などが構成員の皆様にも共有できるようになった。しかし、今年度は、報告での開催となっている。	運営推進会議は町会長、地域包括支援センター、薬局、特別養護老人ホーム職員、幼稚園長、協力グループホーム管理者、家族、職員の参加で行っており、議事録も送付している。今年度から書面会議になっているが、事前に会議案内を送り意見をもらい会議で話し合っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括と共に講座の開催や研修の開催等を行っていたが、その他は特に市町村との連携はない。今年度においては、地域包括との連携は、リモート会議にて行っている。	地域包括支援センターとサポーター養成講座やフォローアップ研修で協力関係を築いている。グループホーム管理者会議は現在ウェブ会議となって継続している。市からケアマネージャーに対し認知症ケアの普及啓発についてなどの連絡をもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化のための指針を策定し、研修を年2回と入職時に身体拘束の研修を行っており、身体拘束に対する知識や考え方については、より確定的なものとなっていると思われる。	身体拘束に関する説明書と同意書、経過観察記録の用意をしている。定期的に身体拘束適正化のための指針を検討する委員会を開催している。職員は身体拘束を疑似的に体験し、言葉使いやケア場面での不適切ケアを未然に防ぐための研修をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を行うほかに、職員のストレスが緩和できるように個別での聞き取りなどを行っている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はまだ多くないが、実際に利用している入居者の方がいらっしゃるため、制度の概要や後見人の方との交流の機会があり、今後利用する方がいらっしゃった場合でも特に問題はないと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書などの説明は、事務的に進めるのではなく、疑義等について都度尋ね、行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や家族会総会の場などを利用して意見の汲み取りの機会としている。また、面会時などに顔を合わせ、普段から会話することで、色々なことが話せる関係性の構築に努めている。	「面会記録に家族の来訪や連絡時の意見、要望、気づきを記録して職員で共有している。新規採用の職員も通信で紹介している。家族会があり、利用者はその協賛金でもらう敬老会のプレゼントやリンゴのもぎ取り収穫を楽しみにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場などではあまり意見の吸い上げができないため、個別にて聞き取りを行ったり、業務量の多寡を研修などで話し合いの機会を設けるなどし、反映できるように配慮している。	些細な事でも施設長や職員同士で常日頃から話することができる関係であり、意見や要望は運営に反映させている。職員研修では業務分担や人員配置が適正か、業務量が現状に合っているかの確認と検討をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいの創出のために、研修を行い知識や技術を身に付けてもらえるように配慮している。研修の内容については、一方的に提供するのではなく、その時々に必要な事柄に寄り添った内容としている。また、労働時間を勤務者の人数に応じて配慮する等している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前項目でも記載したが、内部研修と年4回開催し、知識や技術の共有を図っている。また、業務に疑問が持て、持った疑問は都度解決できるような体制と作ることで、業務に取り組む姿勢の深化を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括と協働し、地域のグループホームを対象とした研修を企画するなどしていたが、今年度は研修の開催自体が困難なため、行えていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係性を構築するうえで、距離感を大切にしながら、コミュニケーションを図ることで、良好な関係性が構築できると考え、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との関係性の構築は、見学時から始まっていると考え、できることとできないことをしっかりと共有できるように働きかけ、良好な関係づくりの構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	共に生活する中で見極めを行い、支援の過多や不足が起こらないように、配慮している。また、その方の言動に短絡的に支援することなく、観察を行うことで、潜在的な支援が行えるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員を立場の違いではなく、役割の違いととらえ、どちらも優劣なく、お互いを尊重しあえる関係性の構築を図ることで、共に支えあえる関係でいられるように工夫している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などにいろいろな話の中からサービスに求めていることを聞ける様に配慮し、プランに取り入れることで家族と一緒にケアしていると思っける様に配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時に通っていた病院に継続して通って頂ける様に支援している。また、希望があれば理容院等も変えることなく通って頂ける様に配慮している。	外出自粛期間でも利用者が寂しい思いをしないよう家族や友人等に電話を掛ける手伝いや手紙の代筆などで交流が途切れないよう支援をしている。ガラス戸を隔てた面会でも実際に元気な顔が見えることで利用者の心の支えになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションを図って頂ける様に配慮し、適宜仲介を行うことで馴染みの関係や良好な関係を気づいて頂ける様に配慮している。また、仲介が過多にならないように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族が近所の方で、家庭菜園でとれた野菜などをいまだに差し入れてくださる方はいらっしゃるが、今までに退去後の支援を望まれたご家族はいない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症が軽度の場合などで、本人から希望や意向が聞き取れる場合は把握に努めているが、聞き取りが困難な場合などは今までの生活歴などから検討している。	利用者の声に耳を傾け、要望や希望を聞いて職員が共有することで思いと意向を暮らしに取り入れている。把握が困難な場合や表情が乏しくなった場合は事前の情報で意向の検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や共に暮らす中で生活の中の好き嫌いなどの把握に努めている。また、ご家族からの聞き取りなどからも把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムは一人一人違うことに意識を持ちながら共に生活することで、生活の状態や躰き等に気付ける様に配慮している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフには支援経過の記入をしてもらうことで、その人の変化に目を向けてもらえるように配慮している。ご家族や本人には普段の何気ない会話の中などから要望や課題の抽出を行っている。	毎日の介護記録を検討し、毎月支援経過でまとめ利用者ごと6か月の介護計画を作成している。生活に変化のある場合は介護計画書の中の生活援助計画にわかりやすく記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの項目以外にも普段のかかわりや共に生活する中で気づいたことなどを毎日の申し送りやミーティング時に共有し柔軟に対応できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があった時には検討しているが、あまりに幅を持ちすぎると基本的なことに対する取り組みに厚みが出てこないため、そのバランスがとれるように配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や地域包括とのかかわりを持ち、普段から交流を行うことで、永山亭が地域で孤立しないようにしていたが、今年度は特に取り組みや交流は持っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を受けている。往診を希望された方や身体的な状況から受診が困難になった方についてかかりつけ医に往診に入って頂いている。主治医とは密に連絡を取り、適切な医療を受けられるように配慮している。	毎月提携医が往診で訪問しており、体調の変化など緊急度のある場合はいつでも電話で指示がもらえる。看護師が週2回、健康管理をしている。病院ごとの受診記録簿があり、受診内容で変化があったり投薬変更の場合は家族に連絡をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の医療職としての観点と介護職員の介護職としての観点から意見を出し合い、合意形成を図りながらより入居者本人に寄り添った対応ができるように配慮している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供としてフェイスシートを入院先に提供し普段の状況の共有を図っている。退院時には医療機関から情報提供を受けて入院中の様子の把握に努め、退院後の生活に困難さを持たないように配慮している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明するが、実感のない中でご家族は聞くため、特に質問や要望はない状態にある。よって、状態の変化があった時に再度説明を行っている。その際には、永山亭ですることできないこと、今後予想される状態についてを作成し説明を行っている。	入居時に「重度化・看取りに関する指針」と同意書を取り交わし、終末期を迎える場合に「今後考えられる事」を説明し、利用者や家族の望む終末期を迎えるために医師や事業所ができることを話している。事業所では看取りを経験し、職員は看取り後の振り返りや研修を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、マニュアル通りに動ける様に周知している。また、責任の所在をはっきりさせることで、安心して業務に取り組めるように配慮している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し、その際に消防設備などから意見を頂戴している。その意見については全体に周知できるようにしている。	火災・地震・風水害・雪害の避難については非常災害対策マニュアルがある。2年以内の訓練では日中と夜間の火災訓練をしている。災害時の危険箇所の確認をしており、災害備蓄品も揃えている。	火災以外の地震、長期停電、断水なども想定し、さらに感染防止対策をした備蓄品の追加や避難先での感染防止対策も含めた訓練を期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の入居者というとらえ方ではなく、人と人と認識することで、おのずと配慮された対応になると考え、スタッフに周知している。	接遇に関する内部研修を行っている。個人情報の記載された書類は全て事務所内に保管し、記録の際は事務所カウンターを使用している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中のどこに躓きが存在しているのかを行動や動作の細分化を行うことでピンポイントに把握できるように配慮し、自己決定の妨げにならないように配慮しながら支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムやその人の好みを把握し快く生活できるように支援することを大切にし対応している。また、誰にとつての何かということに意識を持つことで、入居者主体の生活になるような支援に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活歴などをご家族から聞き取りを行うことで、たとえ自ら意思決定ができなかったとしても、その人らしい恰好やおしゃれができるように配慮している。			

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自ら食事がとれることは、食事を楽しむうえで大切なことと考えているため、なるべく自力にて摂取して頂ける様に支援している。また、いちから調理することで家庭的な料理を食べていただいている。	職員作成の献立を保健師指導の下、使用している。野菜の下処理や後片付けなどを利用者も一緒に行っている。出前の寿司や「生菓子の日」をつくり和菓子やケーキ等をイベントの際に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表を利用し摂取量の把握に努めている。また、摂取量が少ない方には嗜好の把握などを行い、提供することで補えるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、できることできないことの把握を行いながら、適宜ピンポイントで支援できるように配慮している。また、確実に口腔ケアが行えるように支援不足がないようにも配慮している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムの把握を行い、なるべくトイレにて排泄して頂ける様に支援している。また、リハビリパンツになったからと言ってそのまま過ごしていただくのではなく、排泄の状況により布パンツにて対応できるようにし、一方通行にならないように配慮している。	排尿チェック表に個別に記録している。利用者の状況に合わせて適切な声かけ誘導を行うことで失敗を減らしている。季節に合わせて使用する排泄用品を要することで失敗を減らした例や、マッサージや腹巻の使用で排泄状況が改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中帯の活動量を本人の状況に応じて促すなど行っている。また、緩下剤や牛乳などを調整しながら不快な状況にならないように配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間や曜日については、スタッフの数や勤務時間などによりおのずから決まってしまうが、其時間の中でできるだけ思う時間や思うタイミングで入浴して頂ける様に配慮している。	月火・木金曜日に1人週2回の入浴支援を行っている。機械浴用の浴室も完備し利用者全員が湯舟に浸かっている。入浴剤の利用や同性介助にも対応しており、安心して入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯の活動量をできるだけ確保し、夜間帯にゆっくりと眠れるように支援している。また、夜間帯の訪室や声掛けなどは必要以上に行わないように配慮し、眠りの妨げにならないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の定時バイタル測定を行い、普段の状況を把握するとともに異常があった場合に気づける環境を整備している。また、何の薬を服用しているのかすぐに確認できるように薬剤簿をすぐに見られるように配置している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は誰かに与えられるものではなく、自ら創出するものであるとの認識を全スタッフに周知したうえで支援することで、快く生活して頂ける様に配慮している。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望がある場合などは、適宜対応している。また、実際に一緒に買い物に行くなどして、個別に対応もしている。また、町内会の行事などにも参加させていただくことで、地域の方とも顔見知りの関係の構築を図っている。しかし、今年度は行えていない。	事業所近隣の散歩や旭川大学での花見、永山神社への参拝など外気に触れる機会を作っている。秋にはドライブで神居古潭での紅葉見学を行った。利用者の趣味に関する物を買い物に行くなど、個別の外出支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	前項目にも記載したが、買い物と一緒に出掛けるなどし、その際にはできるだけ本人に支払ってもらえるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があった際には、適宜対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な刺激を排除し、快い刺激を提供できるように、不適切支援や接遇、心地よい設えについての研修を行うなどし、全スタッフに周知を図っている。	広々とした共用部分は大きな窓から陽が差し込み明るい空間となっている。温度計や湿度計を設置し加湿器等の使用で利用者が安心して過ごすことのできる空間が作られている。しめ飾り、鏡餅、クリスマスツリーや雛人形など季節に合わせた装飾や壁には利用者の写真等が飾られており、温かみのある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓は、場所が決まっており、その場所を現在全入居者が気に入って使っている様子が見受けられている。DRIはソファを配置し、好きなところに座って頂ける様に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に自宅や自室の再現をしていただくことで、住み替えによる混乱などができるだけ起きないように配慮している。また、身体状況などに応じて模様替えを行い、その時々にあった使いやすい自室となるように配慮している。	洗面台、ベッド、カーテンが備え付けられている。椅子やタンスなど使い慣れた家具やテレビや裁縫道具など趣味に関する物を持ち込んでいる利用者もいる。壁には家族写真が飾られている居室もあり、安心して居心地よく過ごせる空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動作を細分化することで、できることの継続を図るためのピンポイントの支援ができるように心がけ、できることが継続して頂ける様に配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901852		
法人名	株式会社 ケアジャパン		
事業所名	グループホーム 永山亭 ユニット2		
所在地	旭川市永山4条22丁目4-12		
自己評価作成日	令和3年2月15日	評価結果市町村受理日	令和3年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は、配食や食材配達などを使わず、近所のスーパーより食材を購入し、施設内にて調理している。召し上がった入居者の方々からは「おいしい」と好評いただいている。  
 入浴は、リフト浴を完備しており、たとえ浴槽を跨ぐことが困難になった方でも、ゆっくりと危険なく浴槽に使っていただき、ゆっくりと温まっていただくことができるようになっている。  
 外出レクについては、コロナウイルス感染症の拡大により、あまりできていないため、室内にて楽しんで頂ける様に、ホットプレート料理や毎月「生菓子の日」を設定し、洋菓子や和菓子を召し上がっていただくなど、工夫を凝らしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901852-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901852-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に理念をスタッフ全員で決めることで、決められたものをただ行うのではなく、積極的に実践できるように工夫している。また、理念を目に付くところに掲示することで、すぐに確認できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加することや認知症の普及啓発の為にサポーター養成講座を地域包括と開催する等行っていたが、今年度は、除雪時に向かいの方と交流する程度となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の普及啓発の為、地域包括と認知症サポーター養成講座の出前講座などを開催していたが、今年度は、特に働きかけられていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までの運営推進会議構成員に加えて、他のグループホームにも加わってもらうことで、他のグループホームの話などが構成員の皆様にも共有できるようになった。しかし、今年度は、報告での開催となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括と共に講座の開催や研修の開催等を行っていたが、その他は特に市町村との連携はない。今年度においては、地域包括との連携は、リモート会議にて行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化のための指針を策定し、研修を年2回と入職時に身体拘束の研修を行っており、身体拘束に対しての知識や考え方については、より確定的なものとなっていると思われる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を行うほかに、職員のストレスが緩和できるように個別での聞き取りなどを行っている。また、業務が過多にならないように、人員の数に応じて調整を図っている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はまだ多くないが、実際に利用している入居者の方がいらっしゃるため、制度の概要や後見人の方との交流の機会があり、今後利用する方がいらっしゃった場合でも特に問題はないと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書などの説明は、事務的に進めるのではなく、疑義等について都度尋ね、行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や家族会総会の場などを利用し意見の汲み取りの機会としている。また、面会時などに顔を合わせ、普段から会話することで、色々なことが話せる関係性の構築に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場などではあまり意見の吸い上げができないため、個別にて聞き取りを行ったり、業務量の多寡を研修などで話し合いの機会を設けるなどし、反映できるように配慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいの創出のために、研修を行い知識や技術を身に付けてもらえるように配慮している。研修の内容については、一方的に提供するのではなく、その時々に必要な事柄に寄り添った内容としている。また、労働時間を勤務者の人数に応じて配慮する等している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前項目でも記載したが、内部研修と年4回開催し、知識や技術の共有を図っている。また、業務に疑問が持て、持った疑問は都度解決できるような体制とすることで、業務に取り組む姿勢の深化を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括と協働し、地域のグループホームを対象とした研修を企画するなどしていたが、今年度は研修の開催自体が困難なため、行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係性を構築するうえで、距離感を大切にしながら、コミュニケーションを図ることで、良好な関係性が構築できると考え、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との関係性の構築は、見学時から始まっていると考え、できることとできないことをしっかりと共有できるように働きかけ、良好な関係づくりの構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	共に生活する中で見極めを行い、支援の過多や不足が起こらないように、配慮している。また、その方の言動に短絡的に支援することなく、観察を行うことで、潜在的な支援が行えるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員を立場の違いではなく、役割の違いととらえ、どちらも優劣なく、お互いを尊重しあえる関係性の構築を図ることで、共に支えあえる関係でいられるように工夫している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などにいろいろな話の中からサービスに求めていることを聞ける様に配慮し、プランに取り入れることで家族と一緒にケアしていると思ってくれる様に配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時に通っていた病院に継続して通って頂ける様に支援している。また、希望があれば理容院等も変えることなく通って頂ける様に配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションを図って頂ける様に配慮し、適宜仲介を行うことで馴染みの関係や良好な関係を気づいて頂ける様に配慮している。また、仲介が過多にならないように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族が近所の方で、家庭菜園でとれた野菜などをいまだに差し入れてくださる方はいらっしゃるが、今までに退去後の支援を望まれたご家族はいない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの聞き取りの他に、認知症が軽度の場合には、なるべく本人から聞き取りを行い、生活を共にすることで、意向などの把握に努め、徐々に認知症が進行した時に思いがくみ取れるように配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居間もないころには、ご家族から聞き取りを行うが、共に生活する中で、これまでの生活や永山亭での生活の把握を行い、共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムは一人一人違うことに意識を持ちながら共に生活することで、生活の状態や躰き等に気付ける様に配慮している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフには支援経過の記入をしてもらうことで、その人の変化に目を向けてもらえるように配慮している。ご家族や本人には普段の何気ない会話の中などから要望や課題の抽出を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの項目以外にも普段のかかわりや共に生活する中で気づいたことなどを毎日の申し送りやミーティング時に共有し柔軟に対応できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があった時には検討しているが、あまりに幅を持ちすぎると基本的なことに対する取り組みに厚みが出てこないため、そのバランスがとれるように配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や地域包括とのかかわりを持ち、普段から交流を行うことで、永山亭が地域で孤立しないようにしていたが、今年度は特に取り組みや交流は持っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を受けている。往診を希望された方や身体的な状況から受診が困難になった方についてかかりつけ医に往診に入って頂いている。主治医とは密に連絡を取り、適切な医療が受けられるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の医療職としての観点と介護職員の介護職としての観点から意見を出し合い、合意形成を図りながらより入居者本人に寄り添った対応ができるように配慮している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供としてフェイスシートを入院先に提供し普段の状況の共有を図っている。退院時には医療機関から情報提供を受けて入院中の様子の把握に努め、退院後の生活に困難さを持たないように配慮している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明するが、実感のない中でご家族は聞くため、特に質問や要望はない状態にある。よって、状態の変化があった時に再度説明を行っている。その際には、永山亭でできることとできないこと、今後予想される状態についてを作成し説明を行っている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、マニュアル通りに動ける様に周知している。また、責任の所在をはっきりさせることで、安心して業務に取り組めるように配慮している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し、その際に消防設備などから意見を頂戴している。その意見については全体に周知できるようにしている。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の入居者というとらえ方ではなく、人と人と認識することで、おのずと配慮された対応になると考え、スタッフに周知している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中のどこに躓きが存在しているのかを行動や動作の細分化を行うことでピンポイントに把握できるように配慮し、自己決定の妨げにならないように配慮しながら支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムやその人の好みを把握し快く生活できるように支援することを大切にしている。また、誰にとつての何なのかということに意識を持つことで、入居者主体の生活になるような支援に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活歴などをご家族から聞き取りを行うことで、たとえ自ら意思決定ができなかったとしても、その人らしい恰好やおしゃれができるように配慮している。			

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自ら食事がとれることは、食事を楽しむうえで大切なことと考えているため、なるべく自力にて摂取して頂ける様に支援している。また、いちから調理することで家庭的な料理を食べていただいている。食事形態についても、適時検討し、その方にあった形態にて提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表を利用し摂取量の把握に努めている。また、摂取量が少ない方には嗜好の把握などを行い、提供することで補えるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、できることできないことの把握を行いながら、適宜ピンポイントで支援できるように配慮している。また、確実に口腔ケアが行えるように支援不足がないようにも配慮している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムの把握を行い、なるべくトイレにて排泄して頂ける様に支援している。また、リハビリパンツになったからと言ってそのまま過ごしていただくのではなく、排泄の状況により布パンツにて対応できるようにし、一方通行にならないように配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中帯の活動量を本人の状況に応じて促すなど行っている。また、緩下剤や牛乳などを調整しながら不快な状況にならないように配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間や曜日については、スタッフの数や勤務時間などによりおのずから決まってしまうが、その時間の中でできるだけ思う時間や思うタイミングで入浴して頂ける様に配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯の活動量をできるだけ確保し、夜間帯にゆっくりと眠れるように支援している。また、夜間帯の訪室や声掛けなどは必要以上に行わないように配慮し、眠りの妨げにならないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の定時バイタル測定を行い、普段の状況を把握するとともに異常があった場合に気づける環境を整備している。また、何の薬を服用しているのかすぐに確認できるように薬剤簿をすぐみられるように配置している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は誰かに与えられるものではなく、自ら創出するものであるとの認識を全スタッフに周知したうえで支援することで、快く生活して頂ける様に配慮している。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望がある場合などは、適宜対応している。また、実際に一緒に買い物に行くなどして、個別に対応もしている。また、町内会の行事などにも参加させていただくことで、地域の方とも顔見知りの関係の構築を図っている。しかし、今年度は行えていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	前項目にも記載したが、買い物と一緒に出掛けるなどし、その際にはできるだけ本人に支払ってもらえるように支援している。しかし、今年度は行えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があった際には、適宜対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常にある刺激(音・光・匂い・温度・湿度等)について意識することで、その人(入居者一人一人)にとって何が快くて何が不快なのかを考えるきっかけとしている。また、設えについてもソファをいくつも配置し、自分の場所を作っていたきながら、心地よく生活して頂ける様に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓は、場所が決まっており、その場所を現在全入居者が気に入って使っている様子が見受けられている。DRIはソファを配置し、好きなところに座って頂ける様に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に自宅や自室の再現をしていただくことで、住み替えによる混乱などができるだけ起きないように配慮している。また、身体状況などに応じて模様替えを行い、その時々にあった使いやすい自室となるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動作を細分化することで、できることの継続を図るためのピンポイントの支援ができるように心がけ、できることが継続して頂ける様に配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム永山亭

作成日：令和 3年 3月 8日

市町村受理日：令和 3年 3月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の避難訓練は行っており、火災に対する意識や避難誘導の知識は徐々に成熟してきているが、火災以外の災害に対する訓練は、マニュアルの周知にとどまっており、実際に想定した訓練ができていない。また、備蓄についても、感染症対策の備蓄と災害用備蓄を分けてしまっていた。	災害全般の訓練を行い、災害に対する備えができていく状況が整備できる。また、すべての備蓄が一目で把握でき、不足などが起こりにくい状況が整備できる。	火災のみを想定せずに、他の災害も想定した内容で避難訓練を実施する。また、備蓄のリストを災害用と感染対策用に分けず、一目でわかるように一括化する。	6か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。